



## H分科会 「集まって住む」

司会	土田 久美子 (秋田県建築士会)
アシスタント	今井 廣子 (秋田県建築士会)
コメンテーター	中野 晶子 (東京建築士会)
出席者	39名

### 分科会主旨

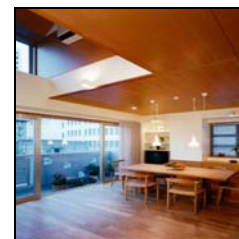
東京都港区借上げ住宅政策事業の第1号「小林ポートハウス」に携わった経緯と現在のオーナー、港区、及び店子さんの関係をまちづくりの観点から報告いただき、各地域での「集まって住む」の意味を改めて考えてみました。

### 活動報告 「東京都港区借上げ住宅の場合」

土地価格が高く、昼の人口が夜に比べて5倍になるような特異性のある港区で、人口流出を防ぐための住宅政策を行い港区に根付いた文化をささえている人々や生活を絶やすことなく街づくりが再構築されました。

仕  
組  
み

1. 住宅を借り上げ、空家補てんを行う (オーナーの利点: 安心)
2. 家賃補助を行う (店子の利点: 低家賃)
3. 入居者の選定 (区の利点: 人口流出を防ぎ、文化を継承)
  - ・ 家族のいる人
  - ・ 夫婦どちらかの親が港区に居住しているか、本人が勤務している
  - ・ 所得が基準値以内であること



第1号の小林宅は施主が建築界の動向をよく知っている方だったこともあり、区との調整もうまくいき (区からいろいろなことを引き出すことに) 成功した例です。こうした公的補助事業も「知る人ぞ知る」といった状態でもっとPRが必要であると同時に、我々も目と耳を大きく広げておおいに活用していきましょう。(きっと何か生まれますよ)

### 意見交換

- 大阪等一部都市では会社の跡地にマンションがたち、人口が増加している。
- 民活で商店街が活発で高齢者でも住み続けられる街づくりができています。
  - 地方では空家が目立つ。どうにか活用できないものかと悩む。
  - 種子島は近所付き合いが深い地域で空き施設を福祉施設として活用。島の若者が出ていき、島以外から (サーファー等が) 集まって住むようになってきており新しい人間関係ができてきている。
  - 開発事業を行えば老人が離れて行ってしまふ。いろいろな世代が集まって住める事業にしていかなければならないのでは。
  - コレクティブハウスを建て見学会等を行いPRしているが、住み続けた土地を離れたくない、煩わしい等の理由で定着していない。
  - 街全体を集まって住む地域にしたい。
  - 人間は一人では生きていけないものだから「集まって住む」は好き。
  - 情報交換は大切。この会を活用していきたい。

